

パイプシステム通信

No.27

2025年11月 (隔月発行)

2025年12月13日(土)から「NTTジャパンラグビー リーグワン2025-26」が開幕します。昨シーズン準優勝のクボタスパース船橋・東京ベイは、ディビジョン1・カンファレンスBに所属し、開幕戦ではノエビアスタジアム神戸にてコベルコ神戸スティーラーズと対戦します。

最新情報は、公式サイトおよびSNSで随時発信しております。また、ファンクラブ「Spears+ (スパースプラス)」の会員も募集しております。

是非会場にお越しいただき、熱い応援をよろしくお願いいたします。

パイプシステム通信 編集部

2025広島水道展
ご来場のお礼

(一般社団法人 日本水道工業団体連合会主催)

「2025広島水道展」は、2025年10月29日から31日まで開催されました。会期中は、多くの皆さまに弊社ブースへお立ち寄りいただき、誠にありがとうございました。

2026年は長崎市での開催を予定しております。またのご来場をお待ちしております。

効果的な漏水対策を支援
デジタル配水ブロック

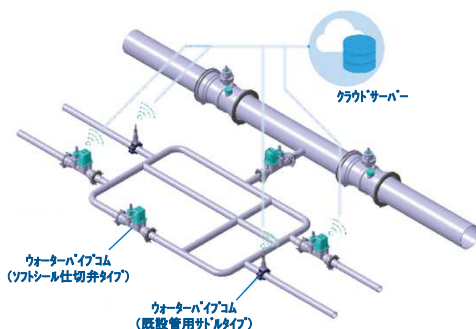
配水管網のブロック化により、適切な漏水調査エリアの選定が可能となり、地下漏水発見精度向上等の効果が狙えますが、従来のブロック化は、大規模な管路再構築工事を伴い、バルブ切替えや管路洗浄等の問題もあり思うように進められていませんでした。

弊社はセンシング機器を用いて疑似的な配水ブロックを短期間に簡単に構築できる「デジタル配水ブロック」と命名した手法を提案し、ブロック化の導入になかなか踏み出せない水道事業者様を支援していきます。

管路内に「ウォーターパイプコム」等のセンシング機器を設置し、疑似的な配水ブロックを構築。配水区域を複数のブロックに分割し、各ブロックの流入・流出の全水量をリアルタイムで計測し、流入量と流出量の差からブロック内の漏水量等を把握します。既設管用サドルタイプは不断水施工にも対応し、従来必要だったバルブ切替え

や管路洗浄作業等を大幅に削減し、住民への濁水発生リスクを回避できます。取得したセンシングデータは、監視・分析システム「PIPISTION GIS」と連携し、マップ上に表示され、管路内の状態を遠隔で監視できます。また、弊社の老朽度AI評価等の管路診断手法と併せて活用することで、更に漏水調査業務の効率化を支援します。

本手法にご興味がございましたら、弊社営業担当者までご連絡ください。

【ウォーターパイプコムを用いた
デジタル配水ブロック化イメージ】

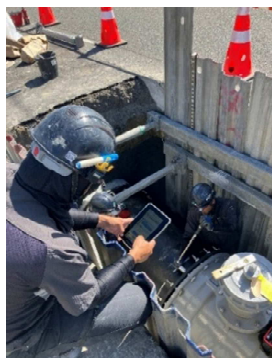
施工情報システムⅡ採用

at 福岡県北九州市

弊社では、NS形φ800の工事において、施工情報システムⅡを採用しました。システムでは、各管材に合わせた接合確認手順が表示され、ガイダンスに沿って正しい接合管理が行えるため、作業者の熟練度に依らず、施工品質の向上に繋がると感じました。

作業終了後には、iPadからデータをクラウドに送信することで、チェックシートが自動で作成され、作業後の事務処理にかかる時間を大幅に削減することができました。シンボル図やチェック結果メモの転記を行う必要がなくなり、書類作成を確実かつ効率的に行えています。

今後、現場での使用意見や改善要望等を、都度クボタにフィードバック予定です。施工情報システムⅡの更なる利便性の向上を期待しています。



<株式会社清栄 代表取締役社長 山内栄治 様>

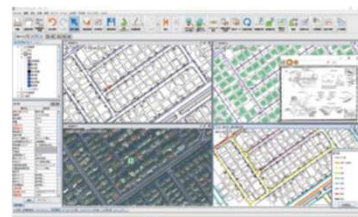
マッピングシステム
「WATERS」を導入して

当企業団がマッピングシステムを導入してから約20年が経過した現在、システムは水道施設の維持管理において、欠く事のできないものとなっています。

この間、システム技術は日々進化しており、当企業団も機能拡張を見据えた更新が必要となったことから、令和5年度に「WATERS」を導入し再構築を行いました。

本システム導入にあたり、今後予測される職員の削減や給水人口の減少等といった要素に対し、水道施設の維持管理業務と関連事務の更なる効率化を図る必要性があることから、管網診断を含め総合的に評価支援といった機能拡張を図ることが決め手となりました。

今後も「適切な配水運用の継続」「施設機能保全の向上」「漏水事故等における復旧作業の迅速化」など事業に即した機能の活用と、データベースの効率的な更新処理の充実を図っていきたく考えています。

WATERS-Cloud
クラウド型管網管理システム

<春日那珂川水道企業団 施設課維持係 主任主査 越智 様>